

広がる世界、広げる世界

生徒 小学生にプログラミングを教える私たちの活動「Programming Of the Kids By the Kids For the Kids.」が5年目になり、今はスーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）の課題研究として、企業と共同でワークショップを開催したり、訪問する学校数を増やしたりと、活動範囲はかなり広がりました。

先生 自分たちで訪問先の学校を見つけたり、企業と連絡を取って計画を立てたりする行動力は、正直、先生以上だなと思うことがあります。

生徒 最初はプログラミングが何かすら知らない子どもたちが、最後には自力でゲームを作り「できたよ!」と見せてくれる時にやりがいを感じます。勉強や部活動との両立は大変だけれど、またやりたいと思うんです。

生徒 学校外の人と話す機会がたくさんあるのも、楽しくて刺激を受けています。今までで一番苦労したのは、去年参加したSGH指定校の発表会です。発表は中1から何度も経験していたけれど、あの時の練習では先生からいろいろ指摘されてへこたれそうでした。

先生 初めて参加する公的なSGH発表会だったから、研究の信頼性をいかに高めるか、発表会のテーマに

沿った内容になっているか、厳しく指摘したよね。

生徒 スライドの内容や発表時の姿勢など、見やすく分かりやすく伝える重要性を学びました。ポスター発表もプレゼンテーションも金賞を受賞し、先生から「よく頑張ったね」と言われて、すごくうれしかったです。

先生 審査員から高評価を受けて、みんなで大喜びしたよね。でも、先生としては、発表会でみんなが他校の発表をしっかりと聞いて、先生の予想以上に的確な質問をしていたのがうれしかったな。

生徒 それまで、質問をすると相手の発表が不十分だと言っているような気がしていましたが、実際に自分が発表した後、質問をされると、研究内容に関心を持ってきているんだとうれしくなりました。先生が「質問は相手へのリスペクトだ」と言われていた意味が分かって、それからは相手の発言をしっかりと聞いて質問をしたり、感想を言ったりするようになりました。

先生 授業も大切だけれど、体験でしか学べないこともたくさんあります。SGHの活動はその1つです。みんなが安心して社会に出て、たくさんの多様な体験ができるよう、これからも後押しをしていくね。

杉本紀子先生 教職歴24年。同校に赴任して21年目。主幹教諭。進路指導主事。SGH委員会主任。

東京都・国立東京学芸大学附属国際中等教育学校 全日制/普通科/共学/1学年約130人/2017年度入試合格実績（現役のみ）国公立大は、東京大、京大などに29人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ266人が合格。